

2016年度 自己評価結果について

作成 高松聖ヤコブ幼稚園

1. 本園の教育目標

「自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい」というキリスト教精神に基づいた保育を行い、人を思いやる「優しい心」、与えられた命を大切に「健やかな体」を作り、困難にぶつかっても「強い意志」でやり遂げる子どもを育てることを目指す。

- ①自由保育により、学年、クラスを越えた子どもたちの交流の中で、年下に対する思いやりの心を育て、年上に対する憧れの気持ちを育み、自由な交流の中で互いに刺激しあい、豊かな体験をさせようとしている。
- ②広い園庭のなかで、伸び伸びと体を動かし、自園給食により、こどもの健康と発育に配慮した献立を用意している。また園外講師による体操教室が定期的に開かれ、こどもの身体能力に見合った体力を伸ばすプログラムを用意している。
- ③保育者は、学年・クラスを越えて、一人ひとりのこどもを観察し、その発達に応じて身体的にも精神的にも、こどもの健全な成長を側面的にサポートする。

2. 本年度、重点的に取り組んだ目標・計画と評価

認定こども園へ移行にともなう変化については理解を深め、教職員が新しい園の在り方について学ぶことが求められる。特に大きな変更点としては2号認定子どもの受け入れと、子育て支援事業を開始することになったことである。2号認定子どもの受け入れについては、受け入れ時間の延長、土曜日、行事代休日の預かりが実施されることになり、それに伴う保育者の増員により連携を深めること、また子育て支援事業については、地域のニーズを探りつつ、これに応える計画を立案することが求められる。

3. 評価項目の達成および取り組み状況

評価項目	達成度・取り組み状況
本園の教育目標・教育方針、及び幼稚園教育要領の精神を踏まえた教育課程が編成されているか	本園の特色を生かす保育を目指しつつ、教育要領を踏まえ、現実の保育に活かすよう、具体的な場面について話し合い編成している。
教育要領、教育課程など教員間で話し合いこれを指導計画に反映させているか	指導計画に必要と判断したことを加え、また反省点を修正し、こどもの実情に即したものとするよう努めている。
指導計画の実践に当たって、必要な環境の整備を行っているか	新園舎2年目となるが、年長2クラスが2階へ移ったことにより、異年齢交流には工夫が必要である。また子育て支援事業を開始するに当たり、子育て支援室の整備に努めた。

各園児の健康、発達、関係を把握し、適切な対応に心がけているか	保育者が、日々のこどもの様子を注意深く観察すると共に、保護者から家庭での様子を聞き取り、個々のこどもに対して適切な対応がなされるよう配慮することを心がける。また保護者、ケースによっては医師、ケースワーカーと連携しつつ、日々の保育に反映させるよう努めている。
園児が安全に幼稚園生活を過ごせるために環境を整えているか	園内の定期安全点検を実施すると共に、日々の活動の中で保育者が危険箇所がないか注意を払うと共に、自由保育の際には死角が出来ないように保育者の配置（立ち位置）について理解しておくよう努めた。
園児について保育者間で、クラス・学年を越えて情報が共有されているか	日々の保育に於いてこどもの様子、こども同士の関係、保育者の関わり方など、喜ばしいこと、気がかりな点、反省点などを伝え合うよう努めている。このことは保育者間のコミュニケーションと関係しており、情報を正確、かつ効率よく伝達するための工夫が求められる。
園児の様子を保護者とやり取りできているか	園日より、お便り帳を通じて、また現在は園舎改築、新制度及び認定こども園への移行への作業に伴い、園の方針や取り組み状況の発信を積極的に行っている。更に日々の業務を通じて、保護者の信頼を得るための努力が必要である。
研修・研究に積極的に参加し資質の向上に努めているか	各種の研修会、研究会に参加し、学んだことを教師会などに於いて報告して、その成果や意義について話し合っ共有化し、保育現場で活かすように努めている。殊に次年に開催される県大会公開保育に向け、各保育者が課題を明確にし、どのように取り組むか準備する必要がある。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

<p>教員がそれぞれ自己評価し、日々の保育現場を改めて見直し、また互いに感想、意見を交換することを通じて、評価すべき点を認識して更なる向上に努めると共に、今後重点的に取り組むべきことを明確化し、問題点の克服に繋げようとしている。ただそのためには、日々の業務を効率よく処理し、話し合うための時間を生み出す工夫が求められる。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
総合的な教育計画	3年間の幼稚園教育全体を通して、入園時から徐々に自立心を育てることが求められるため、総合的な計画を立案することを目指したい。
担任と保育担当の連携	認定こども園に移行したことにより、保育を必要とする2号こどもを受け入れると共に、一時預かりの利用者も増加する傾向にある。教育時間の様子を預かり（保育）の保育士に伝えたり、逆に保育の様子をクラス担任に伝えるなどの連携に工夫が必要である。
行事等の見直し	長く伝統として当園で受け継がれた行事や習慣について、教育の質を低下させることなく、合理化に努めていきたい。

6. 学校関係者の意見

特に指摘すべき問題はなく、適切に進められていると認められる。

7. 財務状況

公認会計士の監査により、適正に運営されていると認められている。